

# 医大ニュース

No.79 2004.3

発行 京都府立医科大学

〒602-8566 京都市上京区河原町通

広小路上ル梶井町465

TEL 075-251-5208 FAX 075-211-7093

## 変革期において大学の発展を目指して

学長 井端泰彦

昨年4月に2期目の学長に就任し、この3月末に通算4年を経過、在任期間2カ年を残すこととなります。

昨年3月にイラク戦争が勃発し、5月に終結宣言、12月にサダム・フセインの拘束以降も自爆テロが絶えず、我が国も自衛隊を復興支援に派遣しましたが、復興の目処は立っておりません。北朝鮮の核開発や拉致問題も解決の糸口が見つかりません。昨年のSARS騒動に続いて鳥インフルエンザが発生し、地元京都でも丹波町で鳥インフルエンザが発生、大量の鶏が死亡し、大混乱を起こしております。昨年は衆議院選挙が行われ、今年は参議院選挙が行われますが、年金問題や道路公団民営化など多くの不安要素が見られます。

本学は昨年4月より大学院重点化を行い、統合医科学1専攻(定員1学年70名)分野に再編し、従来の縦割りの研究指導ではなく、講座横断的、全学的に大学院生の教育、研究指導を行うように改変しつつあり、大学院生にもその状況について、現在アンケート調査の準備をしております。また、一昨年4年制としてスタートしました看護学科に大学院修士課程を設立すべく準備を始めました。

卒前教育につきましても、学生部長、教育委員会、学生課で取り組んでおりますが、今年の新入生から新しい統合カリキュラムにより教育を行うことに決定し、また、できるだけ学年制を取る工夫もなされております。現在、全国的に進められているコアカリキュラムにも充分対応でき、臨床実習前コンピュータによる共用試験(CBT)本

学では昨年より試行に参加し、客観的臨床技能試験(OSCE)にも充分対応できるように準備をしており、また、教員の教育評価についても試行を始め、新年度には実施したいと考えております。

一方、卒後教育につきましても、本年4月から36年ぶりに研修医制度が変わり、新しい研修医制度により新卒業生が研修を行います。厚生労働省の考え方としては、医師としての人格の涵養、プライマリケアへの理解を高め、患者さんを全人的に見ることができる基本的な診療能力を修得、アルバイトをせずに研修に専念できる環境を整備するという3つの項目を打ち立てております。研修病院の選び方につきましても、研修生の希望と研修病院の研修プログラムや条件との突き合わせ(北米で行われているマッチングの導入)が行われました。従来の制度では研修を受けた卒業生のうち70%強が大学附属病院で研修を行い、一般研修指定病院では30%程度であったものが、新制度では一般研修指定病院で50%強と大学病院とほぼ半数ずつになっております。研修科目も、内科、外科、救急・麻酔の基本科目、産婦人科、小児科、精神科、地域保健・医療の必修科目及び選択科目と幅広い研修となります。今年には本学の卒業生のうち31名が附属病院で、27名が本学関係の協力病院等で研修を受ける予定です。ただ、研修医への報酬、研修カリキュラム、指導医をはじめ指導体制の確立など、多くの問題も含んでおります。

研究及び高度先進医療の発展のために、今年、京都府の財政が厳しい中で、ポスト



ゲノム研究においてプロテオミクス、トランスレーショナルリサーチの研究機器の整備のため2億数千百万円の予算をお願いし、今年は7400万円を承認してもらいました。再生医療を推進するための施設整備についても承認してもらいました。また、大学総務費及び振興会経費の中で学長裁量経費を設け、プロジェクト研究や高度先進医療への支援などインセンティブを設け、元気の出る施策を行います。

昨今盛んに叫ばれている産学公連携につきましても、昨年4月1日よりリエゾンオフィスを開設し、9月10日に開設記念として京都ホテルオークラにおきまして、約500名の参加者を得て、「京都府立医科大学産学公連携フォーラム」を開催いたしました。これを契機として本学が持っている医学、医療、看護などのシーズを広く知っていただき、他大学や企業と密に連携し、社会に役立つ実学的な研究を展開しようと思っております。また、11月からは、「医用工学」、「再生医療」、「予防医学」、「看護・介護」

### 目次

1 学長あいさつ .....	1~2	3 トピックス	
2 学内ニュース		・新たな医師臨床研修制度について .....	7
・感染対策部の設置 .....	2	・リエゾンオフィスの取り組みについて .....	9
・「重症急性呼吸器症候群(SARS)」の 対応について .....	3	・平成15年度教職員人権啓発研修を実施 .....	11
・同志社大学と学术交流協定を締結 .....	4	・防災に関する取り組みについて .....	11
・2003年度トリアス祭を終えて .....	5	4 府立医大10大ニュース2003 .....	12
・平成15年度京都府立医科大学 リカレント学習講座について .....	6		

の4つの研究会から構成される「京都次世代医療研究会」を我々の大学が中心となって開催しております。また、本学初の寄附講座として株式会社ツムラからの寄附による「東洋医学講座」を平成15年9月1日に開設いたしました。高度な西洋医学の代替医療として東洋医学が注目されており、教育、研究、診療の発展が期待されているところであり、外来診療も開始されました。

附属病院における整備につきましては、京都府の少子化対策の一環として重症新生児治療の一層の充実を図るため、新生児集中治療室(NICU)の全面改修工事を行いました。また、今年再び本邦にSARSが発生、京都において患者さんが発生した場合のため、感染対応病室5室(5床)、外来専用診療室を1室整備しました。しかし、実際に患者さんが発生した場合、その搬送や医師、看護師などの待機の問題などが残されております。また、疾患別病棟再編についてもできることから準備しております。

現在の外来棟は昭和37年に建設されたものであり、老朽化、狭隘化しており、臨

床研究棟とともに全面建築を府当局にお願ひし、昨年基本構想をまとめました。今後、できるだけ早期に基本計画を認めていただき、工期もできるだけ縮めて患者さん中心の高度先進医療が提供できるよう、整備に向けた取組を進めたいと思っております。

一方、京都府からの附属病院への繰入金削減のため、私が委員長となり附属病院経営改善推進会議を設置いたしました。その中で山岸附属病院長をはじめ各診療科、中央部門、看護部、薬剤部、事務部などの人たちが一丸となり努力をしていただき、平均在院日数の大幅短縮、紹介患者数、初診患者数、救急患者数、新規入院患者数、手術件数などが増加し、また、病院運営効率化、病病連携、病診連携の推進などによりかなりの効果が生まれ、改善がなされております。

最後に、今年4月1日より国立大学は国立大学法人法により国立大学法人となりますが、公立大学も地方独立行政法人法の成立に伴い、法人化も可能となりました。一昨年設立されました「府立の大学あり方懇

話会」の提言を受けて現在、府立の両大学のあり方について「21世紀の府立の大学検討会議」で協議しており、近く一定の方向が示される予定です。その中で本学は一貫して医学、医療、看護、保健、福祉、医用工学などヘルスサイエンス系大学として発展、地域貢献を行うことを主張しております。

私は現在、学長に就任いたしまして4年が終わろうとしていますが、昨年あたりから大学改革の手応えを感じるようになりました。やはり大学に勤務されている人たち一人一人が大学の現状を認識し、将来の発展を期し意識改革を行われることが必須であります。それぞれの職場において相互理解と相互信頼のもとにぜひ連携を深めていただきたいと思います。私も残された任期を元気のある特徴のある大学として発展させるべく精一杯努力する覚悟でありますので、よろしくご支援をお願いいたします。医大を構成される皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。

## 学内ニュース

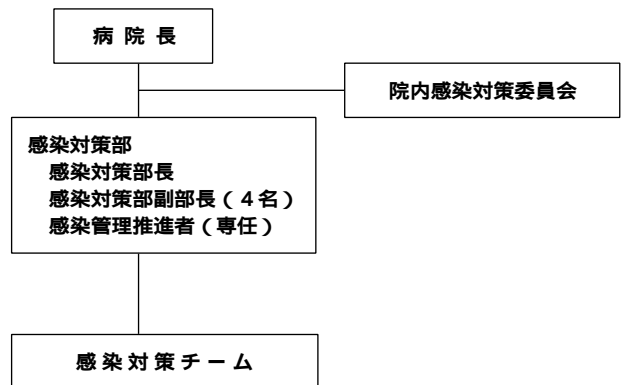
# 感染対策部の設置

「医療法施行規則の一部を改正する省令」が改正され、特定機能病院においては、専任の院内感染対策を行う者の配置が義務づけられました。それを受けて本学附属病院では、平成16年1月1日に感染対策部を設置し、感染管理体制の充実を図りました。

20世紀は、公衆衛生の向上や抗菌薬の開発をはじめとした医学の進歩により、多くの感染症が克服されてきました。しかし、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)やバンコマイシン耐性腸球菌(VRE)など抗菌薬による薬剤耐性菌の出現が新たな医療上の課題になっています。また、新興再興感染症も院内感染に影響を与えることが問題になっており、昨年アウトブレイクした重症急性呼吸器症候群(SARS)では、院内感染をいかに防ぐかが焦点となりました。

院内感染は、患者様に不要な苦しみを与えるだけでなく、入院期間の長期化など経済的・社会的負担を強いることとなります。同時に病院・医療従事者に対しても過大な負担を及ぼします。感染管理は、医療・ケアの質の向上、不要な経費の削減、リスクマネジメントの側面からも喫緊の課題です。

感染予防は、個人で行っていただければ守れる問題ではありません。病院全部門の職員とともに取り組んでこそ目的が達成されます。研修会の開催だけでなく、ラウンドなどを通して、各部門の問題に対応していくとともに、組織横断的調整が必要な課題を把握して、取組を進めていきたいと考えています。



## 学内ニュース

## 「重症急性呼吸器症候群(SARS)」の対応について

「重症急性呼吸器症候群(SARS)」の流行に備え、本学附属病院では入院、外来両施設の整備を行いました。

入院施設については、第1種感染症指定医療機関における病室等の施設基準に適合できるよう、C2号病舎の改修を行い、前室を備え、陰圧管理のできる病室(44㎡)を5室整備しました。病室内にはトイレ・シャワーを設置し、独立の給排気、排水設備としています。また、SARS患者の受入に必要な設備・備品(滅菌処理装置、トランジット・アイソレータ、防護服、人工呼吸器、ポータブルX線装置等)も併せて整備しています。

外来施設については、救急室内に、前室を備え、陰圧管理のできる専用診察室(16㎡)を整備しました。他の患者との接触を極力避ける動線で診察できるように、外から直接診察室内に入れる構造としています。

感染症法が改正され、SARSが第1類感染症に指定されたことに伴い、本学附属病院は、同法に基づき、京都府知事から、緊急時にSARS患者の入院受入ができる医療機関として特別認定されました。

また、病院全体としてSARS対策に取り組むため、昨年12月に病院長を本部長に「SARS対策本部」を設置するとともに、診療チームを編成するなど、体制の整備を行いました。

さらに、SARSに関する研修会を実施するとともに、SARS患者受入搬送の模擬訓練を府・市担当課や保健所等の関係機関と連

携して実施しました。

更にマニュアルの細部の見直し等により、SARS発生時に対応できるよう取組みを進めているところです。



車イス型アイソレーター



SARS患者対応の個人防護具の装備

## 学内ニュース

## 同志社大学と学術交流協定を締結

平成15年12月24日(水)に本学と同志社大学は、両大学が擁する多様な教育研究資源の相互利用や共同研究等を骨子とする理工連携に係る学術交流協定を締結しました。

当日は、「京都府立医科大学と同志社大学の学術交流に関する包括協定書」に井端学長と同志社大学の八田学長が、「京都府立医科大学と同志社大学の研究交流に関する協定書」に伏木研究委員会委員長(研究部長)と同志社大学の高野研究開発推進機構長が、それぞれ署名・調印されました。

この協定の締結により、本学の高度な医科学教育研究と同志社大学の理工学先端テクノロジーの教育研究との交流連携が促進され、新たな共同研究の立ち上げや研究開発等を通じて社会貢献・地域貢献を実現するとともに、最先端の知識と技術を運用できる人材育成を進めていくこととなります。

今後は、研究者の交流や研究情報の交換を積極的、重点的に進め、両大学の教育研究資源を有効活用した先端的な共同研究プロジェクトなどが展開されることが期待されます。



学術交流協定を結んだ井端学長(左)と同志社大学の八田学長(右)

## 今後の交流に係る具体的な事項

- ・竹の高度利用による健康増進と医療への応用
- ・先端的口ロボット工業技術による医療技術(手術)の変革
- ・環境工学技術の活用による医療環境アメニティの向上
- ・高度IT技術の活用による健康科学の推進(e-Health systemの構築)
- ・認知科学・脳科学研究の共同推進による人間理解の深化 等

## 学内ニュース

## 2003年度トリアス祭を終えて

トリアス祭実行委員会医学科委員長 新美太祐

今年度のトリアス祭は『Aqua』というテーマのもと、11月2日から4日に行われました。11月3日はあいにくの雨に見舞われましたが、オープンキャンパスをはじめとして来場者数は上々で、3日間を通じてたくさんの方々に来ていただくことができました。ここでは3月に実行委員会が発足してから11月にトリアス祭が終了するまでの出来事を、簡単ではありますがご報告させていただきます。

春の段階で最も苦労したことはテーマを決めることでした。何かを一から創り出すということはこんなにも難しいことなのかと考えさせられました。結果的には『Aqua』というシンプルなものに落ち着きましたが、これには、「水」という普段意識することの少ないものに目をやると、そこから家族・思いやり・医療 etc.といった、なくてはならないものに支えられていることに気付き、このトリアス祭が、身近なものに改めて目を向け、見つめ直すきっかけになれば...」という願いが込められています。そして本祭中、参加者に「2年後のわたしへ」という手紙を自分に宛てて書いてもらい、それを色のついた封筒に入れ、『Aqua』という文字を浮かび上がらせるモニュメントを作成しました。この手紙は2年後に郵送する予定です。

5月にはスタートコンパ、6月には恒例

となりましたナイトラウンジ、8月には学年対抗のサッカー大会、10月にはスポーツ大会と、学生だけでなくたくさんの方々に参加していただくことができ、たいへん満足のいく結果となりました。また第一回京都学生祭典にも参加し、アロママッサージが大好評でした。

本祭では、昨年度行われなかった仮装行列を復活させ、成安高校プラスバンド部の協力も得まして、総勢150人余りで大学周辺から四条までを練り歩きました。期間中は大きなトラブルもなく、準備してきたことを存分に出すことができました。

準備期間中もそれほど問題は起こらなかったのですが、本祭が近づくにつれて私たちが頭を悩ませたことは、いかにすれば学年全体が、ひいては学校全体がトリアス祭に参加してくれるのかということでした。宣伝するということの難しさを経験できましたし、自分達は分かっているが周りには知らないことをいかに分かりやすく伝えるかということに大変苦心しました。

このトリアス祭を通じて様々な人と出会うことができたのと同時に、先輩方から脈々と受け継がれてきた伝統を感じることもできました。それは献血です。毎年積み重ねてこられた結果、今回でなんと20回を数えることとなり、赤十字社からは金色

有功賞を、また厚生労働省からは厚生労働大臣表彰状を頂戴することができました。時代の流れに合わせて変化させていくべきことと、変えてはいけないことがあるのだと感じました。

最後になりましたが学生課を始めとする職員の方々、また井端学長、丸中学生会部長を始めとする各教室の教授や先生方にはご多忙中にもかかわらず多くのご協力をいただき、この場をお借りして深謝したいと思います。そして卒業された諸先輩方からの多大なる寄付金には実行委員一同非常に感動いたしました。学友会や大学生協にも様々な形で協力していただきました。私たちだけでは何もできなかったのだと、終わってみて初めて痛感させられました。重ね重ね厚く御礼申し上げます。

このトリアス祭を通じて私たちはたくさんのかげがえのないものを得ることができました。こうして得た経験を自分達の成長につなげていくと同時に、後輩に伝えていくことがこれからの私たちの役目であると感じています。トリアス祭がますます発展していきますように皆さまの更なるご協力をお願いしまして、簡単ではありますが2003年度トリアス祭の報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。



## 学内ニュース

## 平成15年度京都府立医科大学リカレント学習講座について

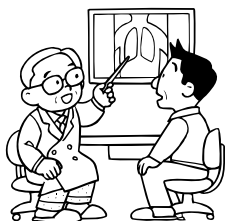
本学では、医学的研究の成果を府民に還元し、府民福祉の向上に資するとともに、広く府民に開かれた大学を目指し実践するため、毎年、府民を対象とした公開講座を開催しているところです。

長寿社会を迎え、府民の保健・医療に対するニーズがますます多様化・高度化する中で、平成15年度からは従来の公開講座に加えて、医療・看護従事者等を対象に、高度で専門的かつ体系的な連続講座による学習の場を提供することを目的に「リカレント学習講座」を開催しました。

上記趣旨に基づき、医学科及び看護学科各々に関連したテーマで講座を開催したところ、併せて17名の参加を得て有意義に講座を終えることができました。

内容は以下のとおりです。

## テーマ：日常診療のための実践講座 - 画像診断を中心に -



- ・開講日 平成15年9月18日～11月6日
- ・時間 13:00～16:00
- ・場所 京都府立医科大学
- ・対象者 医師
- ・受講者 3名



上記期間の木曜日に5回開催し、3名の医師に御参加いただきました。

日常診療においてよくみられる循環器・消化器・脳疾患の最近の診断・治療についての講義及び診断に用いる最新の画像検査(カテテル検査、核医学検査、心・腹部エコー、内視鏡、MRI、CTスキャン等)について演習を行いました。

## テーマ：はじめよう、看護研究(入門編)



- ・開講日 平成15年9月13日～11月1日
- ・時間 9:00～12:10
- ・場所 京都府立医科大学看護学舎
- ・対象者 府内看護職
- ・受講者 14名



上記期間の土曜日に5回開催し、病院や専門学校等に勤務されている看護職の方々14名に御参加いただきました。

講座では、職場で初めて取り組む看護研究について取り上げ、研究テーマの分析、研究計画の立て方、文献の探し方・読み方、外国文献の活用、統計手法の選び方などの講義や演習を行いました。

講座の中では、積極的に講師に質問されるなど、実際に医療現場に従事しておられる方々だけに、参加者の意識の高さがうかがえました。

参加者のアンケートからは「系統的に学習ができた」、「参加者同志の意見交換ができてよかった」、「現在行っていることの再確認ができた」等の感想があり好評でした。

看護学科の方では、講座終了後も参加者の要望により個別指導にも応じており、次なる課程への講義を要望する声もたくさん聞かれています。

平成16年度の講座内容については、現在検討中ですが、引き続き開かれた大学としての取り組みに努めてまいります。

## トピックス

## 新たな医師臨床研修制度について

平成16年度から医師の卒後臨床研修が義務化され、新しい研修制度が実施されます。

新しい卒後臨床研修制度についての国の基本的な考え方は、プライマリケアへの理解を深め、患者を全人的に診ることができる基本的な診療能力を修得するとともに、アルバイトをせずに研修に専念できる環境を整備する、というものです。

本学附属病院の卒後臨床研修の概要は、以下のとおりです。

従来は、基本的に各診療科に所属して研修を受けていましたが(ストレート研修方式)、新たな卒後臨床研修制度では、2年間の研修期間中、特定の医局に在籍せずに、内科、外科、救急・麻酔科、小児科、産婦人科、精神科などの診療科を一定期間ごとに巡回して研修を受けることとなります(スーパーローテーション研修方式)。

- ・基本研修科目(1年目) ...内科(6ヶ月)、外科(3ヶ月)、救急・麻酔科(3ヶ月)
- ・必修科目(2年目) ...小児科、産婦人科(各2ヶ月)、精神科、地域保健・医療(各1ヶ月)
- ・選択科目(2年目) ...全診療科等から2ヶ月単位で選択(計6ヶ月)

各臨床研修病院の研修医の募集は、全国的に公募し、全国組織が応募者と臨床研修病院との双方の希望順位をすり合わせて組合せを決定することとなっています。(マッチングシステム)。

本学附属病院では、昨年7月26日に研修医の選考試験を行い、120名の定員に対してマッチングにより95名の決定があったところです。

協力病院や協力施設と研修プログラムを共有する「臨床研修病院群」を形成し、1年目・2年目で研修医を交換する「たすきがけ方式」で研修医を受け入れます。この協力病院は19病院あり、具体的には1年目は本院・2年目は協力病院(Aコース)、1年目は協力病院、2年目は本院(Bコース)、2年目とも本院(Cコース)の3つの方式で研修医を受け入れます。

16年度は、Aコース約40名、Bコース約40名、Cコース約10名となる予定です。

従来医局に所属していた研修医は、直接、病院の所属となります。そこで、平成16年度に新たに中央部門の一つとして「卒後臨床研修センター」を設置するとともに、外来診療棟地階の旧食堂(六味館)跡地(112㎡)を研修医が自習、ミーティング等を行うことができる研修施設として整備することとしており、3月末に完成しました。

今後の予定としては、オリエンテーションを4月12日(月)~21日(水)に実施することとしており、医師国家試験合格発表後(4月22日)に本格的に研修が始まります。



新たに設置された卒後臨床研修センター

## トピックス

## 卒後臨床研修ローテーション

コース	1年目研修		
a	内科	外科	救急/麻酔科
b	内科	救急/麻酔科	外科
c	外科	救急/麻酔科	内科
d	救急/麻酔科	外科	内科

↳ オリエンテーション

コース	2年目研修					
a	小児科	産婦人科	精神科/地域	選 択	選 択	選 択
b	小児科	精神科/地域	産婦人科	選 択	選 択	選 択
c	産婦人科	小児科	精神科/地域	選 択	選 択	選 択
d	産婦人科	精神科/地域	小児科	選 択	選 択	選 択
e	精神科/地域	小児科	産婦人科	選 択	選 択	選 択
f	精神科/地域	産婦人科	小児科	選 択	選 択	選 択
g	選 択	選 択	選 択	小児科	産婦人科	精神科/地域
h	選 択	選 択	選 択	小児科	精神科/地域	産婦人科
i	選 択	選 択	選 択	産婦人科	小児科	精神科/地域
j	選 択	選 択	選 択	産婦人科	精神科/地域	小児科
k	選 択	選 択	選 択	精神科/地域	小児科	産婦人科
l	選 択	選 択	選 択	精神科/地域	産婦人科	小児科

備考 「地域」は、「地域保健・医療」をいう。



## トピックス

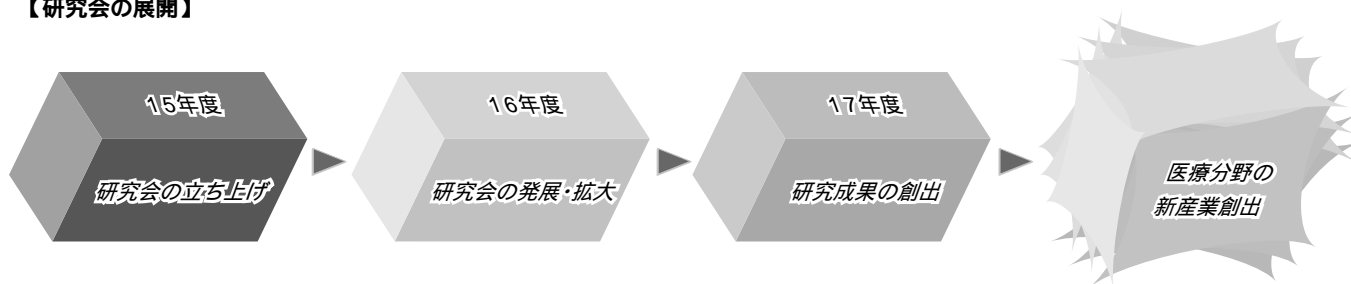
## リエゾンオフィスの取り組みについて

## 京都次世代医療研究会

リエゾンオフィスでは、京都府商工部産業活力支援室等と連携し、「京都次世代医療研究会」を設立いたしました。

京都には、高度な研究成果が蓄積されている大学と、先端の医療機器や材料等を開発する企業が集積しています。4つの研究会（医用工学、再生医療、看護・介護、予防医学）から構成される「京都次世代医療研究会」では、これらの環境を生かし、医療現場から真に必要とされる医療機器や材料等の開発を目指し、先端医療に関する情報提供や製品開発を目指す企業等との交流を促進しながら、医療分野の新産業創出を目指して活動していきます。

## 【研究会の展開】



## 【研究会の概要】

## 1 座長

伏木 信次 京都府立医科大学リエゾンオフィス 室長  
(大学院医学研究科 分子病態病理学 教授)

## 2 コーディネーター

**医用工学** 西村 恒彦 京都府立医科大学大学院医学研究科 放射線診断治療学 教授  
和田 元 同志社大学 工学部 教授(リエゾンオフィス所長)

**再生医療** 木下 茂 京都府立医科大学大学院医学研究科 視覚機能再生外科学 教授  
田畑 泰彦 京都大学 再生医科学研究所 生体組織工学 教授

**看護・介護** 種池 礼子 京都府立医科大学 医学部看護学科 教授

河原 豊 京都工芸繊維大学大学院 先端ファイブロ科学 助教授

**予防医学** 吉川 敏一 京都府立医科大学大学院医学研究科 生体機能制御学 教授

大東 肇 京都大学大学院農学研究科 食品生物科学 教授

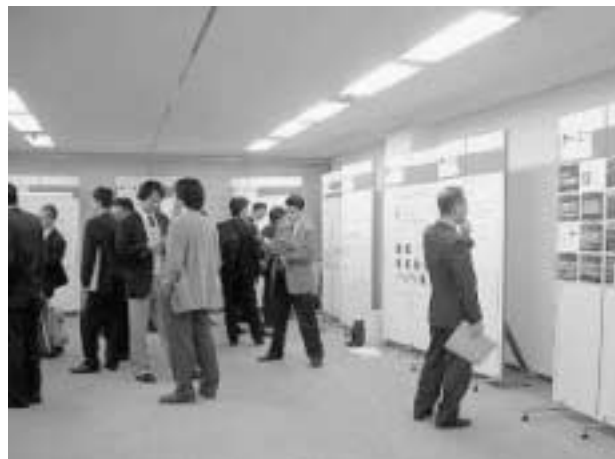
## 3 15年度の活動実績

## (1) 京都医療ビジネスフォーラムの開催

平成15年11月11日(火)、12日(水)に、「京都次世代医療研究会」設立記念シンポジウムとして開催。



伏木座長による開会あいさつ



ポスターセッションの様子

## トピックス

## (2) 研究会活動

- 第1回 平成16年1月21日(水)  
医用工学研究会 「医用工学による診断・治療技術の新生～シーズ・ニーズの現状～」
- 第2回 平成16年1月27日(火)  
予防医学研究会 「食品による疾病予防」
- 第3回 平成16年2月3日(火)  
再生医療研究会 「再生医療の実際～実用化に求められる基盤技術～」
- 第4回 平成16年2月13日(金)  
看護・介護研究会 「看護・介護に対するニーズ・シーズの現状と可能性」

## バイオ分野チャレンジ研究会

京都府中小企業総合センターと社団法人京都工業会は、バイオ・ライフサイエンス・医療分野における産学交流の場として、「バイオ分野チャレンジ研究会」を開催しました。同研究会にはリエゾンオフィスも協力し、本学から多数の方々講演いたしました。

- |   |  |
|---|--|
| 第1回 平成15年11月25日(火)<br>「がんの先端的治療」<br>分子標的癌予防医学 教授 酒井敏行<br>感染免疫病態制御学 助教授 松田 修                     | 第3回 平成16年2月10日(火)<br>「ドライアイの診断・治療の最前線」<br>視覚機能再生外科学 助教授 横井則彦<br>「培養上皮シートによる角膜上皮再生治療」<br>視覚機能再生外科学 中村隆宏<br>「角膜内皮移植について」<br>視覚機能再生外科学 石野 豊 |
| 第2回 平成16年1月14日(水)<br>「糖尿病合併症の発症機序」<br>生体機能制御学 講師 中村直登<br>「糖尿病患者のセルフ・モニタリングシステム」<br>看護学科 助手 光木幸子 | 第5回 平成16年3月16日(火)<br>「内科における産官学共同研究の現況」<br>消化器病態制御学 内藤裕二<br>「医療・研究現場が望む技術的工夫」<br>消化器機能制御外科学 助教授 萩原明於                                     |

第4回は京都女子大学関係者が講演

## 知的財産権セミナー

リエゾンオフィスでは、知的財産権制度に係る理解を深め、本学における研究成果の権利化、技術移転等の促進に資することを目的として、特許庁及び近畿経済産業局の御協力により、去る2月27日、「京都府立医科大学知的財産権セミナー」を開催いたしました。セミナーでは、大塚製薬株式会社知的財産部より八木孝雄氏をお招きし、「研究成果と特許出願について」をテーマにご講演いただきました。

また、セミナー後の質疑応答においても、活発な意見交換が行われました。

当日は、予想を超える人数の方々に御出席いただき、知的財産権に対する関心の高さを感じました。

今後も、このような機会を皆様にご提供できればと考えています。

【セミナー当日に皆様にお配りした資料】



資料のご希望がございましたら、庶務課企画情報係(5208)まで御連絡下さい。

## トピックス

## 平成15年度教職員人権啓発研修を実施

本学が府民から信頼される大学・医療機関として発展していくためには、医療を提供する私たちスタッフ一人一人が常に人権について意識し、「豊かで優れた人権感覚」をもって患者さんに接するとともに、職場の中においてもお互いに相手の身になって考え、行動することが必要です。

そのような中で、本学におきましては、人権教育のための国連10年京都府行動計画に基づき、様々な人権問題を対象とした教職員研修を実施しております。

平成15年度においては、特定非営利活動法人HIVと人権・情報センターの五島真理為理事長をお招きし、1月9日、29日に「輝く生命～エイズを通して人権と共生を考える」をテーマとしたご講演をいただきました。

五島理事長は、ご自身も難病と闘いながら、AIDSに関する啓発やケアサポート、会議等で全国的、国際的に活動されており、その経験に基づく心のこもった語り口は、多くの皆様方に強い印象を与えたのではないかと思います。



◀五島理事長



▶熱心に聴き入る参加者▶

## 防災に関する取り組みについて

平成16年1月15日～21日は、災害時におけるボランティア活動及び自主的な防災活動についての認識を深めるとともに、災害への備えの充実許可を図ることを目的として「防災とボランティア週間」とされており、各地で防災訓練や避難訓練が行われています。

本学でも、昨年11月17日に消防訓練が行われるとともに、本年1月15日に関係所属で通報訓練や招集訓練などの防災訓練が行われるなど、防火・防災に対する取り組みを進めています。

現在の複雑多様化した社会においては、ひとたび災害が発生すると、その被害は計り知れないものがあり、その被害を最小限に抑えるためには、日頃からの備えを充実させるとともに、非常時にいち早く、いかに効果的に対応を行うかが重要になります。

本学では、平成14年3月に京都府立医科大学防災計画と同行動マニュアルを策定しました。

平素から、各所属で確認・点検をお願いしているところですが、緊急時のマニュアルとして効果的なものとなるよう、これを機会に今一度見直しをしていただくとともに、所属単位でも防災に関する取り組みを推進いただきますようお願いいたします。



# 府立医大10大ニュース2003

順位	項目・内容
1位	<p><b>大学院教育研究体系の再編</b></p> <p>医学・医療のめざましい進歩に対応できる高度な医療知識と専門技術を有する医師、世界に羽ばたける研究者を育成し、地域医療への一層の貢献を果たすことを目的として、平成15年4月1日から大学院教育研究体系を再編し、大学院重点化大学としてスタート。再編により本学大学院は、従来の5専攻(社会医療系、生涯医療系、生体制御系、生体情報系、代謝調節系定員54名)から1専攻(統合医科学定員70名)となった。</p>
2位	<p><b>外来診療棟等整備構想を策定</b></p> <p>本学では、老朽化、狭隘化が顕著な外来診療棟や臨床医学学舎等の建替とあわせて、既存建物の用途の変更や改修を行い、病院全体として患者さん中心の医療や、今日の高度な医学・医療に対応した適切な医療を提供すると共に、最先端の医学研究・教育にも対応できる施設整備を行うため、基本的な施設・機能の方向性や内容、患者さんの通院や日常の診療業務に影響の少ない手法等の検討を行い、平成15年3月に整備構想として取りまとめた。</p>
3位	<p><b>府立の大学あり方懇話会提言が提出される</b></p> <p>大学を取り巻く環境の変化に対応するため、今後の府立の大学のあり方について検討を行ってきた「府立の大学あり方懇話会」の提言が取りまとめられ、平成15年3月29日、知事に提出された。この提言を受け、同年7月25日には、大学の基本的な方向について検討するために、設置者と両大学による「21世紀の府立の大学検討会議」が設置された。</p>
4位	<p><b>リエゾンオフィスを開設し、産学公連携フォーラムを開催</b></p> <p>本学の産学公連携を推進する窓口として、リエゾンオフィスを平成15年4月1日に開設した。研究活動に関する情報発信、研究成果の技術移転等により、地域社会、産業界、本学の発展に寄与することを目的に活動している。同年9月10日には開設記念イベントとして、「京都府立医科大学産学公連携フォーラム」を京都ホテルオークラにて開催した(第1部501名、第2部240名出席)。</p>
5位	<p><b>新生児集中治療室(NICU)がリニューアルオープン</b></p> <p>京都府の少子化対策の一環として、高度医療を提供する大学附属病院の役割を踏まえ、重症の新生児治療の一層の充実を図るため、新生児集中治療室(NICU)の全面改修工事を実施した。</p>
6位	<p><b>SARS対応のための施設整備</b></p> <p>世界的に流行した「重症急性呼吸器症候群(SARS)」患者の入院受入ができるようにするため、結核病舎を改修し、感染症対応病室5室(5床)を整備するとともに、救急室内に外来専用診察室を1室整備した。</p>
7位	<p><b>本学初の寄附講座として東洋医学講座を開設</b></p> <p>東洋医学に係る教育・研究・診療の三位一体の講座運営を基本とし、学内教育・研究の豊富化・活性化を図るとともに、東洋医学の進歩・発展を図り、国民(府民)医療に貢献することを目的に、本学初の寄附講座として、株式会社ツムラからの寄附による東洋医学講座を平成15年9月1日に開設した。</p>
8位	<p><b>女性専用外来の開設</b></p> <p>性差に着目した医療の充実を図るとともに、女性特有の症状や病気の悩みを男性医師に相談しにくい女性患者に配慮するため、更年期以降の女性に多くみられる様々な疾患に対して女性の医師が総合的に診療を行う「女性専用外来」を開設した。</p>
9位	<p><b>平成15年度共用試験(CBT、OSCE)の実施</b></p> <p>臨床実習開始前の「学生評価のための共用試験システム」には、コンピュータを使った多肢選択形式試験(CBT)と客観的臨床技能試験(OSCE)がある。本年度は、来年度以降の正式実施に向けた施行としてCBTとOSCEを実施した。</p>
10位	<p><b>井端学長が第19期日本学会議会員に就任</b></p> <p>井端泰彦学長が平成15年7月22日付け(任期3年)で内閣総理大臣の任命により、第19期日本学会議会員に選出された。</p>